

示した値は、3回の採集の平均を底面1㎡当りの値に換算したものである。
 葉上動物の個体数は、11～3月に多く、6～9月は少ない傾向にあった。重量は、腹足類によって変動するため、傾向的变化はみられなかった。また、端脚類・多毛類は、周年、葉上動物相の中で最も個体数が多かった。また、底生動物（葉上動物も含む）の定量化は難かしいので、個体数変動は、これからの調査の積み重ねによって明らかにされるであろう。

6. 施設効果調査

当保護水面内には、今までに図-11.に示した3種の魚礁を設置した。

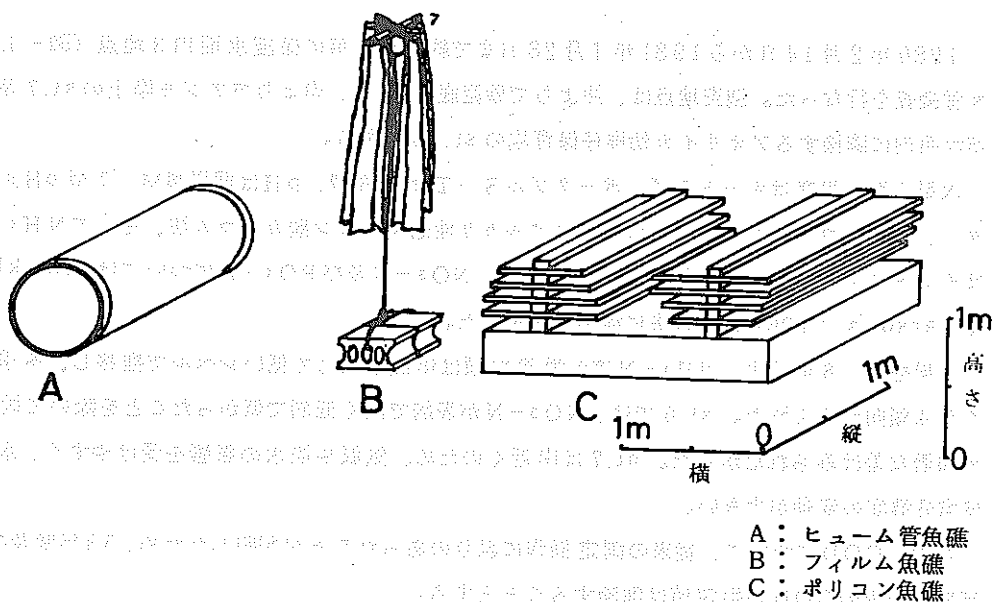


図-11. 保護水面内に設置した魚礁

- ① ヒューム管魚礁：'76年3月施工。設置場所は水深4～5mの砂泥底である（図-1.、A）。周囲の海底にはウミジグサが疎らに分布している。設置個数は66個で2段重ねになっている部分もある。設置後約4年経過した'80年2月頃より潜砂がひどくなり、'81年2月にはヒューム管の径の半分近くが砂泥に埋まってしまった。埋没の進行とともに大型の蛸集魚が減少している（ナミハタ、ブダイ類、シロクラベラ）。
- ② フィルム魚礁：'77年2月施工。設置場所は、ヒューム管魚礁に隣接する地点と、水深12～20mの砂泥底である（図-1.のA及びB）。設置個数は、Aに200個、Bに281個である。浅所のAに設置したものは、設置後2年半経過した'78年9月頃から脱落が目立つようになり、'80年3月にはほとんどが流失・沈下してしまった。Bに設置したものは、'80年10月には、流失・沈下が著しくなり、蛸集魚が減少した。